

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立 西陵中 学校

校長 大立目 佳久

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

本年度より四日市版コミュニティスクール（CS）の指定を受け「西陵中学校運営協議会」が発足いたしました。本校の学校づくりビジョンの柱の一つである「地域とともにある学校の構築」を推進するための大きな力となっています。

保護者や地域の方々の様々な視点からの意見を本校の教育方針や教育計画の作成に活かし、学校経営の改善を図ることで、地域に信頼される学校づくりを目指しています。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

①地域とともにある学校

本校の運営協議会は本年度会議を4回、職員との合同研修会を1回開催しました。将来的には中学生による「地域貢献」を目指しています。初年度としてまずは地域の様子を理解することを目標に、地域の抱える高齢社会問題に対し、校区内にある福祉施設の協力を得て「認知症サポーター養成講座」を実施する予定でした。また、HUG 避難所運営図上訓練など地域防災学習や地域に出での職場体験学習を計画しておりました。これらの活動についてはコロナ禍の為、実施できませんでしたが、中学生がコロナ禍でもできる地域貢献として、生徒たちが考え、地域清掃活動を行うことになりました。他にも地域の団体と協力して、防災標語や人権標語の活動に取り組みました。また生徒会を中心としてシトラスリボン運動やピンクシャツ運動といった人権運動にも取り組んでいます。



②地域や保護者との交流・協働した活動

本年度はコロナ禍の為、年間4回を予定していた学校公開日も日を延期したり、中止したりすることになりました。そんな中、学校の様子をより多くの方に知ってもらうために、H.P.やYoutubeを活用し、体育祭や文化祭、部活動の様子などを発信しました。保護者をはじめ地域関係者など多くの方に学校の様子を見て頂きました。また、校地内の除草作業もPTAや地域の方と生徒が協力し行うことができました。



③子どもたちの安全安心を守る活動

本年度、交通安全活動推進モデル校に指定されたことをきっかけに、生徒会が主催し、自転車の乗り方を中心に交通安全に関する学習会を行い、登校時に交通安全を呼びかけました。PTAも月1回、あいさつ運動や通学路の危険個所に立っての交通指導を行っていただいています。また、夏休み前にはPTA懇談会を行い、教員と保護者が、地域や子どもたちの様子を情報交換しています。



④“未来”をたくましくきり拓く為の活動

本校は「“未来”をたくましくきり拓く生徒の育成」を学校教育目標に掲げています。地域の未来を担う人材育成を目指した取組を行っています。消防署の方を講師に招き防災学習を行いました。いざ災害が起こった時に中学生の力は地域から期待されています。自助・共助ができるように、搬送法や心臓マッサージの方法などを学びました。また、校区の小学校と共に人権フォーラムを行いました。校区全体で人権について考えていくことが、地域の未来につながっていくと考えます。プロの演奏家をお招きして、プロとして働く姿から職業について学び、今後の生き方につなげられるようにキャリア講演会も行いました。他にも、ICT機器を積極的に使った授業を行いながら、デジタルシチズンシップに関する学習にも取組みました。



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

・令和3年度から始まった運営協議会であるが、地域で活躍されている皆さんに、委員になっていただき、中学校の様子を知っていただく機会が増えました。

・コロナ禍であった為、地域に出での活動は実施できなかったが、地域の回覧板に学校だよりを回すアイデアを、運営協議会委員様から頂き実行できました。そのことがあってか、学校アンケートの情報発信・受信の項目は高い評価となりました。

・計画していた多くの活動を実現できなかったが、学校全体として地域とつながる、地域の為に中学生としてできることを考える、といった姿勢は少しずつ生まれてきました。

・運営協議会委員と教員が、同じ場でコミュニケーション研修を受けました。研修の内容もあってか、委員と教員間のコミュニケーションも図れ、来年度以降の活動につながると感じました。



3 今後に向けて

未来をたくましくきり拓く生徒を育成するために、地域の未来を担う人材を育成するために、このコミュニティスクールに生徒の豊かな成長を促進するための重要な方策として取組みます。その為に、先進校の取組も参考にして、この地域に合った、この地域に根差した、西陵中学校独自のスタイルを確立していくために、今後も委員の皆様のご協力を頂きながら、取組を前進させていきます。

